

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1471901700
法人名	有限会社 ハピネス
事業所名	グループホームゆりの花
訪問調査日	平成20年10月27日
評価確定日	平成20年12月4日
評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん 株式会社フィールズ

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 20年 11月 5日

【評価実施概要】

事業所番号	第1471901700号
法人名	有限会社 ハピネス
事業所名	グループホームゆりの花
所在地	横須賀市衣笠栄町1-27 (電話) 046-850-5135

評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん株式会社フィールズ		
所在地	藤沢市鵜沼橋1-2-4 クゲヌマファースト3F		
訪問調査日	平成20年10月27日	評価確定日	平成20年12月4日

【情報提供票より】(平成 20年 9月 25日事務所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 2月 1日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人	
職員数	19人	常勤 6人	非常勤 13人	常勤換算 8.7人

(2) 建物概要

建物構造	(鉄筋コンクリート)造り
	6階建ての 4,6階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	37,000 円	
敷金	50,000円			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,500 円			

(4) 利用者の概要 (9月25日 現在)

利用者人数	17 名	男性	2 名	女性	15 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4	3 名		
要介護5	4 名	要支援2	名		
年齢	平均 81.2 歳	最低	65 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	三輪医院 大川歯科
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は法人を立ち上げたオーナーの介護に対する特別な思いを基盤とし、その上に「ゆっくり、一緒に、楽しむ、共に築く」という理念を積み重ね、実践に向けて日々誠実に取り組んでいます。事業所独自のアセスメントシートを用い利用者の思いにより近づく為の試み、防災対策強化の為に法人内3事業所全体で発足させた「ゆりの花防災委員会」、職員の介護技術向上の為に資格取得支援、衣笠地区内4グループホーム合同のバザー交流会等が更なるサービス向上の為に新たな取り組みとして挙げられます。職員は穏やかにゆったりと常に笑顔で利用者に接しています。開設から5年が経過しましたが、管理者以下常勤職員の交代がほとんどない事も利用者及び家族の事業所に対する安心感、信頼感につながっています。利用者が地域の一人として、地域の中で、地域の人たちの協力を得て、最後まで暮ら続ける事を職員はしっかりと支えています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価では改善課題というよりも更なるサービス向上に向けてプラス をと言う内容でした。職員を育てる取り組みに関しては、資格取得に対する支援を新たに取り入れました。事業所の多機能性を生かした支援に関しては、医療連携体制加算も整えられており、また法人内3事業所の相互協力も十分図られています。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	サービス評価実施前に評価の目的、意義の理解を深める為の話合いが行われ、その後全職員で自己評価に取り組みました。出された意見や気づきをユニット毎に管理者と主任がまとめ自己評価票を作成しました。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	横須賀市衣笠地区合同の運営推進会議の他、民生委員、地域包括支援センター職員、市の長寿社会課職員、家族の出席を得て事業所単独の会議が開催され、事業所の実践活動報告、出席者との意見交換等が行われています。会議時の取り組みの一例として、出席者にホームを見学してもらい、昼食作りも利用者と一緒にしてもらいました。その結果、出席者から認知症や事業所に対する認識や理解が深まったという内容の感想が出されています。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	今までに苦情を寄せられたことはありませんが、窓口担当者を設け対応の為の体制は整えられています。昨年、防災についての質問が寄せられたのを機に、各事業所毎に加え、更に3事業所全体で防災対策に取り組むことを決め、今年1月より「ゆりの花防災委員会」を発足させました。防災新聞を発行し家族に活動状況を報告しています。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	法人オーナー家族が元々住んでいた商店街の一角のビル内での開設の為、地域とのつきあいは良好に保たれています。買い物、散歩時の挨拶や会話、お祭り参加、ゴミ当番、多世代が交流するサロンの利用等地域の一人としての普通の生活が当たり前に行われています。中学校の体験学習の受け入れを行い、交流しています。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者本位、自立支援を実現するための独自の理念「ゆっくり、一緒に、楽しむ、共に築く」を構築しています。利用者のペースに合わせ、見守り重視の待つ介護を実践しています。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の入職時のオリエンテーションで話し合われています。マニュアルとしてきちんと整備されています。管理者は現場の中でも職員に伝えたり、月に一回のカンファレンス時にも確認しています。職員も理念をよく理解し、日々のケアに取り組んでいます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近くの商店街での買い物、散歩時の挨拶や会話、お祭り参加、ゴミ当番、多世代が交流するサロンの利用等地域の一員として、普通の生活の営みがあります。中学校の体験学習の受け入れを行い交流しています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	会議時、サービス評価の目的、実施意義の理解を深める為の話し合いをし、その後全職員で自己評価に取り組みました。出された意見をユニット毎に管理者と主任がまとめ、自己評価票を作成しました。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所単独では3ヶ月に一度、横須賀市衣笠地区4事業所合同は6ヶ月に一度開かれています。出席者(民生委員、包括支援センター職員、市の長寿社会課職員、家族)に事業所を見学してもらい、利用者と一緒に昼食作りを行いました。認知症や事業所に対する認識や理解が深まったという内容の感想が出されました。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所のホーム長がグループホーム協議会の役員を努めていた関係から、サービス向上の為に市職員との情報交換、共有は日常的に行われています。市との連携は良好に保たれ利用者の相談にも柔軟な対応がされています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	職員が毎日記入している個人記録を1ヶ月分そのままコピーし、その月に撮影された写真も添えて郵送しています。また面会の時には声をかけて話し合い、急変、異常の際は随時電話連絡を行っています。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	開設から5年が経過しましたが、不満や苦情は寄せられていません。昨年、防災についての質問が寄せられたのを機に、3事業所全体で防災対策に取り組むことを決め、今年1月より「ゆりの花防災委員会」を発足させました。防災新聞を発行し、家族に活動状況を報告しています。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者が開設時から代わっていない為、利用者や家族に安心感、信頼感を与えています。必要以上の人事異動は行わないように努め、円滑な支援を心がけています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職から3ヶ月間は研修期間とし、各担当者のもと業務に必要な技術の習得に専念する環境を作っています。研修には内外を問わず積極的に参加できる体制が整えられています。資格取得(ヘルパー2級、ケアマネジャー等)の支援も行われ、職員全体の実践力向上に努めています。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	衣笠地区合同の運営推進会議開催や他事業所の主催する研修に参加したりと、必要に応じた情報交換、共有を図っています。昨年より地域の4事業所合同のバザー交流会を実施しています。今年も利用者の手作りの品(お手玉)を制作し準備が進められています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前の事業所見学は必ずお願いしています。希望があれば体験入居にも対応しています。家族との連携、協力を密にし、一日でも早くホームに馴染めるよう支援しています。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員と利用者という関係性以前に、人と人の付き合いという観点からの関係作りに努めています。本人の力を最大限に発揮できるような接し方、働きかけを心がけています。裁縫、漬物の漬け方、生ゴミのまとめ方等利用者から学ぶことが多々あります。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>「ケアプランの立ち上げシート」や事業所独自のアセスメントシートなどを用いて利用者の生活歴、性格、意向や希望などを把握し、カンファレンスで情報の共有を図っています。意思の疎通が困難な場合には、いろいろなケアを試した上で表情や声のトーンから意向を汲み取るようにしています。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者や家族、そして必要な場合には医療関係者などとも話し合って意向や現状を把握し、本人にとって最も適切だと思われる介護計画を作成しています。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>サービス計画の評価会議において再検討が必要との判断が出た場合や、利用者本人や家族から変更の要望があった際には、関係者間で話し合いを持ち、新たな介護計画を作成しています。また、変化が見られない場合でも月に1度は状況を評価し、3ヶ月に1回計画の見直しを行っています。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算に基づいて週1回看護師による利用者全員のバイタルチェックを実施しており、介護予防認知症対応型共同生活介護事業による要支援者の受け入れも行っています。また、理髪店、美容院やデパートなどへの送迎支援にも常時対応しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の希望に応じてかかりつけ医を決めており、入所以前からの馴染みの医療機関を指定するケースもありますが、ほとんどの利用者はホームドクターを勤める同じビル内の協力医療機関をかかりつけ医にしています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約の際に「重度化した場合における対応に係わる指針」および「ターミナルケアの考え方」という書類を家族に提示し、ホームの方針を説明しています。また、終末期および最後に備える上での家族の希望を「確認書」に記入してもらい、方針の共有を図っています。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライドを傷つけないよう目立たずさりげないケアを心がけており、利用者個々に合わせた言葉掛けや対応を行っています。また、カンファレンスでの使用や入院先の病院への情報提供など特定のケースを除いて個人情報の取り扱いを制限しており、管理には十分な注意を払っています。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の決まったスケジュールはなく、利用者の希望にあわせて柔軟な支援を行っています。また、どのような場面でも利用者のペースを尊重し、その日の気分や体調に合わせてゆったりと穏やかな一日が過ごせるよう配慮しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	やりたいと思う利用者には食材の買い出しや食事の準備、後片づけなどを手伝ってもらっています。職員は利用者と同じテーブルについて食事を楽しんでおり、介助が必要な利用者に対してはできるだけ自立した行動がとれるよう見守りながらさりげないサポートを行っています。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は一応決まっていますが、利用者一人ひとりの気持ちや習慣に合わせて希望する日、時間に入浴できるよう支援しています。ゆっくりくつろいでもらうため入浴時間は1時間を目安にしており、風呂ぎらいの利用者には声かけのタイミングを工夫することによって入浴を促しています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの経験や趣味が活かせるよう、アセスメントや日々の係わりから得られた情報を踏まえて声かけをし、家事、編み物、園芸などそれぞれの得意分野で力を発揮してもらっています。本格的なフォークダンスを披露する女性グループや、生け花教室に参加する男性利用者もいます。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候に問題がなければ一日一回は近所の散歩や買い物に出かけており、歩行の困難な利用者も車イスで同行しています。定期的にスーパーや喫茶店を訪れる利用者もいます。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の扉に大きな鈴をつけるとともに、日中はリビングに居る職員が利用者の行動を見守っており、施錠はしていません。近隣の商店街もホームに対して理解があり、無断外出した利用者に気づいたお店の方が声かけをし、保護してくれた例があります。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害発生時の対応マニュアルや緊急連絡網を作成しており、利用者参加による防災訓練も月2回行っています。また、同法人が横須賀市内で運営する3事業所が協力して「防災委員会」を立ち上げており、共同で災害時の備品の購入や薬の備蓄等を行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々の食事量をバイタルや服薬などと併せてチェック表に記録し、献立内容(病院の栄養士が作成したメニューを参考にしたもの)と照らし合わせておおよその摂取カロリーや栄養バランスを把握しています。また、水分チェック表によって摂取水分量を確認しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ビルの4階と6階にホームがあるので、リビングの大きな窓からの見晴らしは良く、春には花見の名所衣笠山の桜も眺められます。窓際にはソファーが置かれてくつろげ、食事やレクリエーションが1つの大きなテーブルを囲んで楽しめるなど、一般の家庭を思わせる作りになっています。他の共用空間にも全体的にアットホームな趣が感じられます。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には馴染みの家具や仏壇など利用者が長年慣れ親しんだ物や好みの物が持ち込まれ、レクリエーションで生けた花が飾られた部屋もあるなど、安心して居心地良く過ごせる空間になっています。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム ゆりの花
(ユニット名)	衣笠 4F
所在地 (県・市町村名)	横須賀市衣笠栄町1 - 27三富ビル4F
記入者名 (管理者)	主任 丹羽 克江
記入日	平成 20年 9月 25日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ゆっくり、一緒に、楽しむ、共に築く という事業所独自の理念を構築している。また、運営基本方針も独自に作成している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者・職員ともに、理念の共通認識を高め、確実な実践のため日々取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族や地域に、理念の理解と実践に伴う協力体制を要請している。 特に運営推進会議を利用し、グループホームの事を理解していただけるよう取り組みを行っている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	施設紹介のパンフレット等を作成し、近隣住民や地域への配布を実施。 利用者の外出支援の際は、近隣住民との積極的なコミュニケーションを図っている。 薬局の店員さんが利用者との散歩中によく声を掛けて下さる。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所が商店街の一角にあり地域交流も盛んである。 地域のお祭り・盆踊り・お茶会に参加している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	事業所として経験やノウハウを持ちながら、地域に波及する機会に恵まれず取組みに至っていない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の実施以前に、全職員に対し実施の意義に対する理解を促している。 また、下された評価を前向きに受け止め、積極的な改善に努めている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、日々の実践や評価等の報告を行っている。 また、そこで出された意見や意向を消化しサービス向上への糧としている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村と情報の交換・共有を密にし、相互の観点からより良いサービス提供に取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、事業者の代表者は研修等参加し、勉強しているが、現状として、職員の理解度は低く、検討や活用が困難な状況である。		今後はスタッフ全員が研修等に参加し、必要時活用できるようにしたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法に基き、事業所独自の虐待防止マニュアルを作成。 研修等に参加し、日ごろから虐待防止への意識を高めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>必要に応じた情報開示を行った上で、利用者・ご家族の要望に出来る限りの誠意を持ってこたえている。その上で相互理解に努めている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者が希望する限り、個別に意向を聞き入れる機会を設ける。</p> <p>また、その意向をカンファレンス等において職員間で共有をし、統一した見解を持ち対応・サービスへの反映へと繋げている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>個別にお便りという形で、ご家族に近況報告を行っている。</p> <p>毎日昼食介助に来られるご家族に対し、その日の排泄、朝の状態など報告している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>クレーム等の対応担当を設け、随時対応出来る体制を整えている。</p> <p>また、寄せられたクレームを真摯に受け止め、事業所内で共有し、今後の対応に生かすよう努力している。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>各セクション毎にカンファレンスを定期開催し、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。</p> <p>その意見や提案に対し、運営者・管理者が吟味し反映に繋げている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>個々の家庭・家族状況を話し合いの上で理解し、柔軟に対応している。必要に応じた勤務調整に努めている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>必要以上の人事異動は行わず、円滑な支援の実施に努めている。</p> <p>職員の移動がある場合は、利用者やご家族への説明を行い理解を促している。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	まず、入職より3ヶ月の研修期間を設け。各担当者の下、業務に必要な技術の習得に専念する環境を作っている。 又、事業所内外の研修にも積極的な参加を呼びかけたり、ユニット毎の交換研修も行って、職員全体の実践力向上に努めている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所と、必要に応じた情報交換を行っている。 また、他事業所の主催する研修にも参加をしている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレスを軽減できるよう運営者・管理者が個別に相談を受けられる環境作りを行っている。 また、定期的に懇親会を行い、職場から離れた状態でリラックスできるように努めている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者からの報告と所見をもとに職員一人一人を評価している。 また、各職員の意見や提案が適切に実現出来るよう努力をしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期の相談時から、利用者本人が抱えているニーズの理解と受け止める努力をしている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の思いや意向を受け止め、実践できるよう考慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者に必要なサービスが提供できるか、事業所の機能・環境・利用者のニーズを考慮した上で判断を下している。必要に応じて、他のサービス情報の提示もおこなっている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設の見学を通し、利用者本人やご家族の意向に沿った形のサービスを受けることが出来るか、自己決定して頂いている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者という関係性以前に、人と人の付き合いという観点を持ち、感情の変化を共有することで、相互の信頼関係の構築に努めている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者を共に支えていく者として、適切な距離感を持った関係性を築くよう努めている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入所後に希薄になりがちな関係性を考慮し、利用者や家族が接する機会や行事を提案している。 また、利用者の写真を定期的に送付することで、離れていても身近に感じて頂けるようにしている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者本人の意向と自己決定を優先し、馴染みの場所や人間関係を維持できるような外出支援を、出来る限りおこなっている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が橋渡しとなり、利用者同士が良好な関係を築けるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用を終了しても、利用時に構築された信頼感が損なわれないよう相談等を受け入れる窓口が出来ている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向や自己決定を最優先事項と捉え、最大限に尊重できるよう努力している。 また、困難な場合は本人と検討の上で、最善策を模索している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去の生活環境や生活歴を考慮し、その人らしい生活が送れるように、最善の努力をおこなっている。入所時には馴染みの物を持って来ていただくようお願いしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活リズムや身体機能・心理状態を総合的に判断・把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	関係者との密な話し合いのもとで、最も適切と思われる介護計画の作成を行っている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	再検討が必要と判断した上で関係者との話し合いを設け、新たな介護計画の再作成を随時行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	どんな些細な変化も記録に残し、職員同士で共有した上で、新たなサービスの糸口になるよう検討を行っている。また、それに伴う介護計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者本人の希望に合わせて、地域の美容院・理髪店に行ったり、デパートにお連れしている。また、他ホームと合同でバザーを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者本人の必要性に応じた社会資源の選択・提示をおこなっている。また、ボランティアを通じ地域との連携を図っている。ボランティアの美容師に3ヶ月毎来てもらっている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他事業所と情報交換等の連携を図ることで、必要に応じたサービスの利用・選択をおこなっている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	その都度必要に応じた協働をおこなっている。		今後は、運営推進会議等を利用し、さらに積極的に行っていききたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームドクターによる定期往診を実施。24時間連絡体制。必要に応じた医療の提供をおこなっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科医のホームドクターの定期往診を実施。利用者の治療をおこなうと共に、職員の介護の相談等もおこなっている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週に1度のペースで看護職が出勤し、医療面のフォローをおこなっている。 また、何か不明な点等あれば、連絡・相談している。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関の相談室等と連携し、入退院を円滑に行える様に努力している。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化やターミナルの場合、利用者本人とご家族の意向を考慮した上で、必要な機関と連携し適切な対応を検討している。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ターミナルケアの研修等に職員を参加させ、緊急時の対応やケア等の習得のおこなっている。 また、ホームドクターの支援と連携も検討の上確立している。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えに伴うリスクを事前に考慮し、リスクを最小限に留めるため必要な情報交換を実施している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人情報の取り扱いを徹底し、特定の場所以外での取り扱いを禁止している。</p> <p>また、プライバシーやプライドを損ねないような関わりを全職員に対し徹底し、一人ひとりに合わせた対応をしている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者の理解力を見極め、それに合わせた関わりをおこなっている。</p> <p>自己決定権を尊重した支援を心掛けている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>生活背景やその人らしさを考慮し、利用者本位の支援をおこなっている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>月に1度、ご本人の希望する理髪店にお連れしたり、お化粧品が好きな方は、毎朝お化粧品をしたり、アクセサリーをつけたりとおしゃれを楽しんで頂いている。その日の服装はご本人の好きな服を着て頂いている。</p> <p>また、近所の理容室へ行かれる方もいる。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>調理・片付けなど、利用者と一緒にこなっている。食事量の少ない人に何を食べたいかたずね、できる限り希望に添っている。</p> <p>しばしば、職員が利用者に教わることもある。</p> <p>また、利用者一人一人に合わせた食事量にしている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>外出した際に、利用者本人が食べたい物などを、職員と一緒に買いに行っている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握。トイレ誘導を定期的に行い、リハビリパンツやオムツを使わずなるべく自立して頂けるよう支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日・時間にこだわらず、ご本人の入りたいタイミングにあわせるようにしている。 ゆっくりと、利用者のペースで入浴して頂いている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間に気持ちよく休息して頂くため、日中散歩やレクリエーション等の活動を増やし、安眠を促している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や趣味を考慮した上で、洗濯や炊事等の家事や、園芸・散歩など、利用者が楽しみにされている事を出来るだけ提供出来るようにしている。男性で花好きの方も、月に一回の生花に参加しています。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理の出来る方は、本人にお任せしている。マンガ本を近くの本屋に買いに行ってる。 買い物等に行かれる際には本人に支払いをして頂いている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩など入居者の希望に沿ってお連れしています。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間行事として、お花見・庭園散策・公民館での映画鑑賞などを企画し、利用者・ご家族・職員を含めた全員で外出をし、交流を深めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が希望された時にはもちろん、常に職員から声を掛け必要であればご家族へ電話して頂いている。 また、年賀状を作成したり支援している		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会に来られたご家族やご本人などと、居室で過ごして頂いたり、ホーム全員でお茶やおやつを楽しんでいる。駅が近く、立地条件が良い面会者が多い。気軽に訪問して頂いている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護保険指定基準を理解し、身体拘束をしない利用者との対話と関わりを重視したケアに取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵を設置しておらず、玄関等に関しては、行事で留守にする時や夜間のみ防犯のため施錠している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜共にワーカー同志が声をかけ合いながら、利用者の所在把握を徹底している。 夜間の睡眠時には1時間毎に巡視をおこなっている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の身体機能や必要性に応じ、個々に必要な物品の設置と保管をおこなっている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	防災委員が会合を持ち、防災訓練も毎月行っている。定期開催しているカンファレンス等で、学習や再確認の機会を設けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	外部研修等に参加し、実践力を高めている。 また、研修の内容をカンファレンス等で全体に波及している。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害発生時の対応等をマニュアル化し、緊急時でも迅速に対応できるよう施設内に掲示している。 ゆりの花3事業所で防災委員会を開き定期的に研修・会議を行っている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ご家族との連絡を密にし、近況報告や相談等をおこなっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	急変時には、ホームドクター等の医療機関と連携し、迅速な対応をおこなっている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能・投与方法はファイリングし職員が管理。 投薬変更があれば、記録等を用いて申し送りをおこなっている。 服薬後の様子観察をおこない、異変が生じた場合は、医療機関への方向・対応をおこなっている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分チェック表を用いて、利用者個々の水分量の確保に努めると共に、オリゴ糖、のむヨーグルトなど効果的なものを個人に合わせて使用をおこなっている。 食事は食物繊維・きのこ類・海藻を積極的に取り入れている。 また、散歩など適度な運動も実施している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自立の利用者は見守りにておこなっている。 歯磨きに拒否がある方は機嫌の良い時を待って行う。 また、介助の必要な利用者には歯ブラシ・電動式・ガーゼによる拭き取りなどをおこなっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェック表を用いて水分量の確認をしている。医療的な制限のある利用者は、医師の指導の下コントロールしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	年に1回のインフルエンザ予防接種の実施。感染予防マニュアルがあり、実施している。カンファレンスや研修等での学習や再確認をおこなっている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板・包丁などを毎日除菌消毒している。コップや食器類は週に1度のペースで除菌作業をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	親しみやすい雰囲気を作るため、観葉植物や季節ごとの飾り付けをおこなっている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が制限無く活動できるような環境作りを目指している。利用者のレクリエーションで作った作品なども展示してある。利用者様手作りの魚をインテリアとしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになりたい人やスタッフと二人だけで話しをする場所として、二人掛けソファを用意してゆったりとくつろげる場所がある。外の景色や、道路が眺めることができる。仲良しは隣同士の席にしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具(箆笥・テレビ・テーブル・椅子等)を持ち込んで頂き、住み慣れた環境になるべく近い状況で生活して頂けるようにしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日定期的に窓を開け換気に努めている。 空調を使用し、利用者の過ごしやすい温度を保っている。		臭いを取る消臭剤を使用する。(体臭・尿臭)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの構造を活かしつつ、危険な所は、てすりや滑り止めを利用し、利用者の自立度を維持するために工夫を行っている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々の理解量に応じた関わりをし、混乱や失敗を最小限に生活出来るよう援助している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ビルの屋上にガーデニング場所を設け、野菜作りなどを利用者と共におこなっている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当事業所は、利用者・ご家族・職員が「ゆっくり・一緒に・楽しむ・共に築く」を理念に、アットホームで安心できる生活の場を目指しております。職員も業務に追われるのではなく、利用者と同じ目線に立ち、共に楽しい生活を送っていきたくて心より願っております。そういった考えの下、現在まで取組み出来上がったホームの雰囲気是非感じて頂きたいと思っております。未だ模索している部分はございますが、全職員同じ目標に向けて日々努力しております。

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム ゆりの花
(ユニット名)	衣笠 6F
所在地 (県・市町村名)	横須賀市衣笠栄町1 - 27三富ビル4F
記入者名 (管理者)	管理者 加藤 正美
記入日	平成 20年 9月 25日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域や家庭にいる時と同じように「ゆっくり、一緒に、楽しむ、共に築く」という事業所独自の理念を構築している。また、運営基本方針も独自に作成している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の現場において職員に伝えている。また、月一回のカンファレンスを利用し伝えている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族や地域に、理念の理解と実践に伴う協力体制を要請している。特に運営推進会議を利用し実施している。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	買い物は商店街を利用。利用者さんと一緒に行き、気軽に挨拶、会話ができて顔なじみになっている。地域のゴミ当番に参加し、利用者と一緒にやっている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	お祭り参加、ごみ収集所の掃除をしている。衣笠地区4グループホームが協力し地域のバザーを実施している。地域のサロンを利用し、地域の方との交流を深めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議にて話し合いなどを行っている。また、横須賀市のグループホーム連絡協議会で講演会や映画会等を合同で行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の実施以前に、全職員に対し実施の意義に対する理解を促している。 また、下された評価を前向きに受け止め、積極的な改善に努めている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、日々の実践や評価等の報告を行っている。 また、そこで出された意見や意向を消化しサービス向上への糧としている。また、ホームの様子を実際に見てもらい意見を聞くなど十分に活かしている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	当グループホーム ホーム長が協議会役員である横須賀市の担当者と情報交換を心掛け実施している。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、活用必要な入居者はいません。今後必要に応じて利用はしていきたい。		今後は事業所内外の研修に積極的な参加を行っていき、適切な制度利用について、事業所全体に波及していく考えである。今後必要な方には、十分に検討し活用していきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法に基づき、事業所独自の虐待防止マニュアルを作成。研修等に参加し、日ごろから虐待防止への意識を高めている。虐待の発生しない環境作りを徹底し、職員のメンタルケアなど日ごろから危険性を初期段階で察知できるよう努めている。 また、万が一発生した場合は、マニュアルに則り迅速な対応を心掛けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>必要に応じた情報開示を行った上で、利用者・ご家族の要望に出来る限りの誠意を持ってこたえている。その上で相互理解に努めている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者が希望する限り、個別に意向を聞き入れる機会を設ける。</p> <p>また、その意向をカンファレンス等において職員間で共有をし、統一した見解を持ち対応・サービスへの反映へと繋げている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>個別にお便りという形で、ご家族に近況報告を行っている。</p> <p>また、急変・異常の際は随時電話連絡をしその後の経過なども報告している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>クレーム等の対応担当を設け、随時対応出来る体制を整えている。</p> <p>また、寄せられたクレームを真摯に受け止め、事業所内で共有し、今後の対応に生かすよう努力している。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>各セクション毎にカンファレンスを定期開催し、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。</p> <p>その意見や提案に対し、運営者・管理者が吟味し反映に繋げている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>個々の家庭・家族状況を話し合いの上で理解し、柔軟に対応している。必要に応じた勤務調整に努めている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>必要以上の人事異動は行わず、円滑な支援の実施に努めている。</p> <p>職員の移動がある場合は、利用者やご家族への説明を行い理解を促している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	まず、入職より3ヶ月の研修期間を設け、各担当者の下、業務に必要な技術の習得に専念する環境を作っている。 又、事業所内外の研修にも積極的な参加を呼びかけたり、ユニット毎の交換研修も行って、職員全体の実践力向上に努めている。 資格取得支援も行っている。	
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所と、必要に応じた情報交換を行っている。 また、他事業所の主催する研修にも参加をしている。 地域の4つのグループホーム協力にてバザーを実施している。	
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレスを軽減できるよう運営者・管理者が個別に相談を受けられる環境作りを行っている。 また、定期的に懇親会を行い、職場から離れた状態でリラックスできるように努めている。	
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者からの報告と所見をもとに職員一人一人を評価している。 また、各職員の意見や提案が適切に実現出来るよう努力をしている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期の相談時から、利用者本人が抱えているニーズの理解と受け止める努力をしている。	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の思いや意向を受け止め、実践できるよう考慮している。 ケアプラン更新時や随時電話等で行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者に必要なサービスが提供できるか、事業所の機能・環境・利用者のニーズを考慮した上で判断を下している。必要に応じて、他のサービス情報の提示もおこなっている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設の見学を通し、利用者本人やご家族の意向に沿った形のサービスを受けることが出来るか、自己決定して頂いている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者という関係性以前に、人と人の付き合いという観点を持ち、感情の変化を共有することで、相互の信頼関係の構築に努めている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者を共に支えていく者として、適切な距離感を持った関係性を築くよう努めている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	大規模に布海にならざる関係性を感じ、利用者ご家族が接する機会や行事を提案している。また、利用者の写真を定期的に送付することで、離れていても身近に感じて頂けるようにしている。家族の希望により、本人用の携帯にて、いつでも話せるように支援している。家族とのつながりについてケアプランにも入れている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者本人の意向と自己決定を優先し、馴染みの場所や人間関係を維持できるような外出支援を、出来る限りおこなっている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が橋渡しとなり、利用者同士が良好な関係を築けるよう支援している。 また、一人一人の性格や生活ペースを考慮し支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用を終了しても、利用時に構築された信頼感が損なわれないよう相談等を受け入れる窓口が出来ている。行事等連絡し、都合が良ければ参加して頂いている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向や自己決定を最優先事項と捉え、最大限に尊重できるように努力している。また、困難な場合は本人と検討の上で、最善策を模索している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去の生活環境や生活歴を考慮し、その人らしい生活が送れるように、最善の努力をおこなっている。入所時には馴染みの物を持って来ていただくようお願いしている。家族からの情報収集にも努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活リズムや身体機能・心理状態を総合的に判断・把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回のカンファレンスにて評価・検討を実施し、介護計画の見直しを行っている。また、本人や家族の意向を介護計画に取り入れている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	再検討が必要と判断した上で関係者との話し合いを設け、新たな介護計画の再作成を随時行っている。変化の見られない場合でも、月に1回評価し3ヶ月に一度の見直しをおこなっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	どんな些細な変化も記録に残し、職員同士で共有した上で、新たなサービスの糸口になるよう検討を行っている。また、それに伴う介護計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所の兼ね備えている多機能性の理解を周知徹底し、必要に応じた活用をもっと積極的におこなっていききたい。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者本人の必要性に応じた社会資源の選択・提示をおこなっている。また、ボランティアを通じ地域との連携を図っている。(消防巡連など 地域の消防所の方)		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他事業所と情報交換等の連携を図ることで、必要に応じたサービスの利用・選択をおこなっている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じた協働をおこなっている。		現状では運営推進会議の場で、関わりをもっているが、今後さらに関係性を密にし連携を図っていききたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームドクターによる定期往診を実施。24時間連絡体制。必要に応じた医療の提供をおこなっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科医のホームドクターの定期往診を実施。利用者の治療をおこなうと共に、職員の介護の相談等もおこなっている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週に1度のペースで看護職が出勤し、医療面のフォローをおこなっている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関の相談室等と連携し、入退院を円滑に行える様に努力している。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化やターミナルの場合、利用者本人とご家族の意向を考慮した上で、必要な機関と連携し適切な対応を検討し看取りもおこなっている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ターミナルケアの研修等に職員を参加させ、緊急時の対応やケア等の習得のおこなっている。 また、ホームドクターの支援と連携も検討の上確立している。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えに伴うリスクを事前に考慮し、リスクを最小限に留めるため必要な情報交換を実施している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人情報の取り扱いを徹底し、特定の場所以外での取り扱いを禁止している。</p> <p>また、プライバシーやプライドを損ねないような関わりを全職員に対し徹底している。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者の理解力を見極め、それに合わせた関わりをおこなっている。</p> <p>自己決定権を尊重した支援を心掛けている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>生活背景やその人らしさを考慮し、利用者本位の支援をおこなっている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>月に1度、ご本人の希望する理髪店にお連れしたり、お化粧が好きな方は、毎朝お化粧をしたり、アクセサリーをつけたりとおしゃれを楽しんで頂いている。</p> <p>また、近所の理容室へ行かれる方もいる。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>調理・片付けなど、利用者と一緒にこなっている。</p> <p>しばしば、職員が利用者に教わることもある。</p> <p>また、利用者一人一人に合わせた食事量にしている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>外出した際に、利用者本人が食べたい物などを、職員と一緒に買いに行っている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握。トイレ誘導を定期的に行い、リハビリパンツやオムツを使わずなるべく自立して頂けるよう支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日・時間にこだわらず、ご本人の入りたいタイミングにあわせるようにしている。 ゆっくりと、利用者のペースで入浴して頂いている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間に気持ちよく休息して頂くため、日中散歩やレクリエーション等の活動を増やし、安眠を促している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や趣味を考慮した上で、洗濯や炊事等の家事や、園芸・散歩など、利用者が楽しみにされている事を出来るだけ提供出来るようにしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は事業所側でおこない、欲しいものがある時には、職員と一緒に買い物に行く。 個人毎に収支帳を作り、領収書を収支帳に付け保管する。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	1日1回買い物や散歩に出るよう心掛けている。 また、希望者は定期的にスーパーや喫茶店に行っている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間行事として、お花見・庭園散策・バーベキューなどを企画し、利用者・ご家族・職員を含めた全員で外出をし、交流を深めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が希望された時に、ご家族へ電話して頂いている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会に来られたご家族やご本人などと、居室で過ごして頂いたり、ホーム全員でお茶やおやつを楽しんでいる。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護保険指定基準を理解し、身体拘束をしない利用者との対話と関わりを重視したケアに取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵を設置しておらず、玄関等に関しては、夜間のみ防犯のため施錠している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜共に、利用者の所在把握を徹底している。 夜間の睡眠時には1時間後との巡視をおこなっている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の身体機能や必要性に応じ、個々に必要な物品の設置と保管をおこなっている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	定期開催しているカンファレンス等で、学習や再確認の機会を設けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	外部研修等に参加し、実践力を高めている。 また、研修の内容をカンファレンス等で全体に波及している。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害発生時の対応等をマニュアル化し、緊急時でも迅速に対応できるよう施設内に掲示している。 ゆりの花3事業所で防災委員会を開き、緊急時の対応等を話し合っている。		今後民生委員、地域の方に協力して頂けるよう働き掛けて行きたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ご家族との連絡を密にし、近況報告や相談等をおこなっている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	1日1～2回バイタル測定し、週1回看護師による体調の確認を行っている。急変時には、ホームドクター等の医療機関と連携し、迅速な対応をおこなっている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能・投与方法はファイリングし職員が管理。 投薬変更があれば、記録等を用いて申し送りをおこなっている。 服薬後の様子観察をおこない、異変が生じた場合は、医療機関への方向・対応をおこなっている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分チェック表を用いて、利用者個々の水分量の確保に努めると共に、オリゴ糖・プルーン・野菜ジュースなどの排便に効果的な食品の使用をおこなっている。 また、散歩など適度な運動も実施している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自立の利用者は見守りにておこなっている。 また、介助の必要な利用者には歯ブラシ・電動式・ガーゼによる拭き取りなどをおこなっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェック表を用いて水分量の確認をしている。医療的な制限のある利用者は、医師の指導の下コントロールしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	年に1回のインフルエンザ予防接種の実施。カンファレンスや研修等での学習や再確認をおこなっている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板・包丁などを毎日除菌消毒している。コップや食器類は週に1度のペースで除菌作業をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	親しみやすい雰囲気を作るため、観葉植物や季節ごとの飾り付けをおこなっている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が制限無く活動できるような環境作りを目指している。利用者のレクリエーションで作った作品なども展示してあう。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人のペースで過ごせるよう個別対応を行い支援している。居間にはソファを置き、自由に過ごせるように工夫している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具(箆笥・テレビ・テーブル・椅子等)を持ち込んで頂き、住み慣れた環境になるべく近い状況で生活して頂けるようにしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日定期的に窓を開け換気に努めている。空調を使用し、利用者の過ごしやすい温度を保っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの構造を活かしつつ、利用者の自立度を維持する為、手すり等を設置している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人の力をスタッフが把握し、話しかける時も個人のペースで会話するなど工夫している。また、出来る事・出来ない事の把握も本人が混乱しないように支援している。見守りの大切さをスタッフに伝えている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ビルの屋上にガーデニング場所を設け、野菜作りなどを利用者と共におこなっている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当事業所は、利用者・ご家族・職員が「ゆっくり・一緒に・楽しむ・共に築く」を理念に、アットホームで安心できる生活の場を目指しております。職員も業務に追われるのではなく、利用者と同じ目線に立ち、共に楽しい生活を送っていきたくと心より願っております。そういった考えの下、現在まで取組み出来上がったホームの雰囲気是非感じて頂きたいと思っております。未だ模索している部分はございますが、全職員同じ目標に向けて日々努力しております。